

山中四国地区本部長に聞く

i-Con対応に着手

業界の意見を伝える

四国の生コン業界の現状と課題について、全生工組連四国地区本部の山中本部長に聞いた。i-Construction（アイコンストラクション）対応やコンクリート舗装の採用拡大、市況の安定維持を重点課題としてあげた。



—今年度から地区本部長に就任された山中本部長

製品を活用する方針が示されており、本来であれば生コンを採用して行われる工事がプレキャストコンクリート製品に置き換わってしまつ可能性があるのではないかと危惧している。発注者に生コンのメリットなどを含めた業界の意見を明確に伝えるとともに、新規需要の開拓については、コンクリート

PR舗装白に整地 組織強化へ維持市況

メンテナンスコストが圧倒的に安くなる。コンクリート舗装を選択肢の一つとして認識してもらえように取り組みを進めます。長らく市況が低迷していた高松が員外利用協定の締結を契機に再建を果した。残る課題は高松の市況改善で、これについては高知県生コンクリート協同組合連合会が中心となって再建を進めている。4月からは協組連が数量管理を行う形での共販体制に移行した。土木工事については高知県建設業協会の協力もあり、共販価格

が浸透している。課題は民間工事だが、協組連と高知県中央、高知、高知中央、高知東部の4協組が連携しながらユーザーに理解を求めようとしている。8月には1000円の値戻しを行う予定で、早期に4ケタからの脱却を目指す方針だ。

香川、徳島、愛媛では生コン市況が安定している。今後の課題は、出荷の減少が見込まれる中でいかに今の市況を安定して維持していくかにある。そこでポイントとなるのは協組連の強化だ。市況の低迷を経験している地区の組合員はその時期に痛い目を見ているのでそれを二度と繰り返してはほしくないという

意識が芽生えている。過去の教訓に組織強化に徹底して取り組み、市況の安定維持に努めてほしい。

—将来を見据えた人材の確保・育成や業界のイメージアップなども課題とされている。資格者の養成も急務だと思っている。工組主任のコンクリート主任技士対策講座など資格取得を目指す技術者が勉強できる機会は提供できていると思う。その成果として、主任技士試験の四股折一問入ってこないといわれているが、それを克服する鍵となるのは業界のイメージアップだろう。就職活動をしている学生をインターンシップで受け入れたら、中学生を対象として、今後小論文対策の強化を図って合格率アップにつなげたい。

高知協組連 8月から1000円値戻し 民間物件に浸透図る

高知県生コンクリート協同組合連合会（山中本部長）は8月1日以降の契約分から1000円の値戻しに着手した。4月から民間建築物件も含めてシェア割りの共販体制に移行した。同協組連では共販に参加している高知県中央、高知、高知中央、高知東部の4協組と連携しながら共販の浸透を図るとともに、ユーザーに対して値戻しへの理解を求めている。

地震対策が支え 17年度は6万m³想定

高知県中央地区生コン協同組合（高知市、南国市、土佐市、吾川）は高知市、香南市、対策工事が出荷を支えている。南海トラフ巨大地震の観測が計画されており、手厚い予算が計上された。防災・減災の観点から耐久性を重視した工法が採用される見込みで、今後、出荷をけん引する巨目物件として期待される。土佐市では公共性の

高い。将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震対策に予算が計上されており、市内では建築物の耐震化、沿岸部では津波対策として防潮堤の整備など

高知協組連は4月から出荷管理装置を導入して協組連による数量管理を徹底するとともに、物件の割り振りは2017年度の出荷量を前年並みの6万m³と

協組 九十二コンクリート協会

同協組の今後の社会的側面について 協組は20年までに環